

**武蔵丘 高等学校 令和8年度年度（3学年用） 教科 国語 科目 論理国語**

教科： 国語 科目： 論理国語 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 8 組 必修

使用教科書： （ 東京書籍『精選論理国語』 ）

使用教材： 『改訂版 評論速読トレーニング 2000』 数研出版  
『論理的に読む 論読現代文3』 浜島書店

- 教科 国語 の目標：
- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
  - 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
  - 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		語	書	読					
近代という時代  【知識及び技能】 ・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解する。 ・文章の要約表現や同義表現の反復（繰り返し）、接続の仕方を理解する。  【思考力、判断力、表現力等】 ・「学習の手引き」の課題について、本文の要旨を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 ・筆者の体験や具体例・引用と主張の関係を読み取り、筆者の主張を理解する。  【学びに向かう力、人間性等】 ・本文の理解を踏まえたうえで、自分の生きる世界とは異なる価値や時間感覚を持つ社会を知ることの意義を理解し、未来の社会について、考えを深める。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめる。	・文章を分析的に読み取り、筆者が提示する具体例を抜き出して把握する。 ・主張と論拠、個別と一般化など、文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容・文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方などの表現の仕方を工夫する。 ・調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・教材…「環境問題と孤立した個人」「鏡の中の現代社会」等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解しているか。 ・文章の要約表現や同義表現の反復（繰り返し）、接続の仕方を理解しているか。  【思考力、判断力、表現力等】 ・「学習の手引き」の課題について、本文の要旨を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫しているか。 ・筆者の体験や具体例・引用と主張の関係を読み取り、筆者の主張を理解しているか。  【学びに向かう力、人間性等】 ・本文の理解を踏まえたうえで、自分の生きる世界とは異なる価値や時間感覚を持つ社会を知ることの意義を理解し、未来の社会について、考えを深めようとしているか。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめているか。	○	○	○	17
メディアを問い直す  【知識及び技能】 ・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解する。 ・「メディア」という概念語について、辞書的な意味だけでなく、本文の文脈の中での使われ方を理解する。  【思考力、判断力、表現力等】 ・「活動の手引き」の課題について、本文の要旨を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 ・意味段落のそれぞれの部分で取り上げられていることを整理して全体の構成を理解する。  【学びに向かう力、人間性等】 ・筆者の主張を踏まえて、自分にとってのメディアの存在を振り返り、情報化社会における自分の考えを深める。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめる。	・文章を分析的に読み取り、筆者が提示する具体例を抜き出して把握する。 ・主張と論拠、個別と一般化など、文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容・文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方などの表現の仕方を工夫する。 ・調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・教材…「おじいさんのランプ」「書物の近代」等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解しているか。 ・「メディア」という概念語について、辞書的な意味だけでなく、本文の文脈の中での使われ方を理解しているか。  【思考力、判断力、表現力等】 ・「活動の手引き」の課題について、本文の要旨を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫しているか。 ・意味段落のそれぞれの部分で取り上げられていることを整理して全体の構成を理解しているか。  【学びに向かう力、人間性等】 ・筆者の主張を踏まえて、自分にとってのメディアの存在を振り返り、情報化社会における自分の考えを深めようとしているか。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめているか。	○	○	○	17
定期考査						○	○		1







武蔵丘 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 国語 科目 現代文特講

教科： 国語 科目： 現代文特講 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 8 組 の選択者

使用教科書： なし

- 使用教材： (1) 「2026共通テスト対策【実用養成】重要問題演習 現代文」ベネッセコーポレーション  
 (2) 「過程の演習 新国語問題集 アシスト第23集 現代文編」啓隆社  
 (3) 「大学入試 国語頻出問題1200 五訂版」いっすな書店  
 (3) 「読み解くための現代文単語」 文栄堂

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもつ、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代文特講 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 時 数
		語	書	読					
1 学 期	<p>【指導事項】 評論や小説の問題演習に取り組む。</p> <p>・ 評論文の演習問題に取り組む中で、話題や筆者の主張をおさえて読解できるようにする。</p> <p>・ 心情をおさえて、小説の演習問題に取り組む中で、登場人物の心情をおさえて読解できるようにする。</p> <p>【教材】 上記(1)～(3) 一人一台端末の活用等</p>	○			<p>【知識及び技能】 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができるか。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができるか。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしているか。</p>	○	○	○	14
	定期考査					○	○		1
	<p>【指導事項】 評論や小説の問題演習に取り組む。</p> <p>・ 評論文の演習問題に取り組む中で、指示語や接続後、対比表現に注意しながら読解できるようにする。</p> <p>・ 小説の演習問題に取り組む中で、登場人物の心情の変化に注意しながら読解できるようにする。</p> <p>【教材】 上記(1)～(3) 一人一台端末の活用等</p>	○			<p>【知識及び技能】 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができるか。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができるか。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしているか。</p>	○	○	○	14
定期考査					○	○		1	
2 学 期	<p>【指導事項】 評論や小説、随想、共通テスト特有の実用的な文章を読み取る問題演習に取り組むことで、大学受験に対応できる知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等を身に付けさせる。</p> <p>【知識及び技能】 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができるようにさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わる態度を身に付けさせる。</p>	○			<p>【知識及び技能】 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができるか。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができるか。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしているか。</p>	○	○	○	14
	定期考査					○	○		1



**武蔵丘 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 国語 科目 古典特講/古典演習**

教科： 国語 科目： 古典特講/古典演習 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 8 組

使用教科書： ( Z会「古文レベル3」数研出版「ミクサ古典文法」桐原書店「古文単語315」 )

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その性質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 古典特講/古典演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やそうとするとともに、古典の内容を解釈するために、自らの学習を調整しながら取り組むこと。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語・	書	読					
1 学 期	単元 用言・助動詞の基礎知識 【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やす。	・指導事項 基礎的な用言の活用、助動詞の接続・意味・活用を復習する。 ・教材 数研出版「ミクサ古典文法」1～6 Z会「古文レベル3」1・4 毎回小テスト（古文単語等）を実施する。	○	○		【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解しようとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やそうとしている。	○	○	○	6
	単元 敬語の基礎知識 【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や敬語における用法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物の行動や関係性を捉えて内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やす。	・指導事項 基礎的な敬語の用法を復習する。 ・教材 数研出版「ミクサ古典文法」7～12 32～34 Z会「レベル3」13、14 毎回小テスト（古文単語等）を実施する。	○	○		【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や敬語における用法を理解しようとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物の行動や関係性を捉えて内容を解釈しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やそうとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
	単元 まぎらわしい語の識別 【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やす。	・指導事項 用言や助動詞の知識を活かし、古文の読解に取り組む。 ・教材 「ミクサ古典文法」13～20 Z会「レベル3」15、16 毎回小テスト（古文単語等）を実施する。	○	○		【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解しようとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やそうとしている。	○	○	○	6
	単元 敬語の定着 【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や敬語における用法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物の行動や関係性を捉えて内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やす。	・指導事項 敬語の用法を定着させる。 ・教材 「ミクサ古典文法」21～27 35 Z会「レベル3」17、18 毎回小テスト（古文単語等）を実施する。	○	○		【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や敬語における用法を理解しようとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物の行動や関係性を捉えて内容を解釈しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やそうとしている。	○	○	○	7
定期考査						○	○		1	
	単元 入試問題演習① 【知識及び技能】古語や文法の知識を活かして比較的難易度の低い入試問題を解く。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物の行動や関係性、文脈を捉えて内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 古語や文法の知識を活かし、古文の読解に取り組む。 ・教材 「ミクサ古典文法」36～39 Z会「レベル3」19～22 毎回小テスト（古文単語等）を実施する。	○	○		【知識及び技能】古語や文法の知識を活かして比較的難易度の低い入試問題を解こうとしている。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物の行動や関係性、文脈を捉えて内容を解釈しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 古典に用いられている語句の意味や用法を理		1		12



年間授業計画

武蔵丘 高等学校 令和8年度（3 学年用）

教科 地歴 科目 日本史

教科：教科 地歴 科目：日本史

単位数：4 単位

対象学年組：第 3 学年 選択授業

使用教科書：日本史探究（実教出版）

教科 教科 地歴 の目標：

【知識及び技能】事実を正しく理解し、思考のための基礎的な知識を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】身に着けた知識をもとに、資料等の情報を分析し、考察・表現する。

【学びに向かう力、人間性等】授業に積極的に参加し、有意義な時間にしようとする。また、課題にきちんと取り組む。

科目 日本史 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら理解し、諸資料から日本の歴史に関するさまざまな情報を適切に得ていく技能を身につける。	日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や特色などを、時期や年代、現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決したりする力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、歴史や文化を尊重することの大切さについて学ぶ。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の時代の転換を理解させる。</li> <li>・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> <li>・ 時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幕藩体制の動揺と幕政改革</li> <li>・ 欧米列強の接近と天保の改革</li> <li>・ 近世文化の成熟と変容</li> <li>・ 開国から倒幕へ</li> </ul>	知・技 左記の学習内容について正しく理解している。	○	○	○	5
		思・判・表 左記の学習内容について、資料を比較・検討し、多面的・多角的な視点で考察し、学んだ知識を活用しながら思考・表現できている。				
		主体性 左記の学習内容について、資料を比較・検討し、多面的・多角的な視点で考察し、課題を意欲的に解決しようとしている。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治維新、自由民権運動を基に、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解させる。</li> <li>・ 文明開化の風潮を理解させる。</li> <li>・ 欧米の思想・文化の影響、産業の発達の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化などに着目して、主題を設定し、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治維新と文明開化</li> </ul>	知・技 左記の学習内容について正しく理解している。	○	○	○	5
		思・判・表 左記の学習内容について、資料を比較・検討し、多面的・多角的な視点で考察し、学んだ知識を活用しながら思考・表現できている。				
		主体性 左記の学習内容について、資料を比較・検討し、多面的・多角的な視点で考察し、課題を意欲的に解決しようとしている。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争などを基に、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解させる。</li> <li>・ 産業革命の展開、交通の整備と産業構造の変容、交通の整備と産業構造の変容、学問の発展や教育制度の拡充、社会問題の発生などを基に、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立憲国家への道</li> <li>・ 議会政治の展開と日清日露戦争</li> </ul>	知・技 左記の学習内容について正しく理解している。	○	○	○	6
		思・判・表 左記の学習内容について、資料を比較・検討し、多面的・多角的な視点で考察し、学んだ知識を活用しながら思考・表現できている。				
		主体性 左記の学習内容について、資料を比較・検討し、多面的・多角的な視点で考察し、課題を意欲的に解決しようとしている。				
2 学期期末考査			○	○		1
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、近代の政治の展開と国際的地位の確立について、事象の意味や意義、関係性などを考察し、表現させる。</li> <li>・ 欧米の思想・文化の影響、産業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日露戦争のアジアへの影響</li> <li>・ 産業革命と社会の変化</li> <li>・ 近代文化の形成と展開</li> </ul>	知・技 左記の学習内容について正しく理解している。				



武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用）

教科 地歴 科目 世界史

教科：教科 地歴 科目：世界史

単位数：4 単位

対象学年組：第 3 学年

使用教科書：詳説世界史 山川出版社

教科 世界史 の目標：

- 【知識及び技能】 近現代の世界の歴史に関わる諸事象について、政治・経済・社会との関連から構造的に理解し、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切に得ていく技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 近現代の歴史に関わる事象の意味や特色などを、時期や年代、現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、歴史や文化を尊重することの大切さについて学ぶ。

科目 世界史 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の世界の歴史に関わる諸事象について、地理的条件や政治・経済・社会との関連から構造的に理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	近現代の歴史に関わる事象の意味や特色などを、時期や年代、現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決したりする力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、歴史や文化を尊重することの大切さについて学ぶ。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 単元 【知識及び技能】 ・アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレオンの支配と対外戦争などを基に、市民革命と近代国民国家の形成を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・市民革命に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。 【学びに向かう力、人間性等】 ・市民革命の歴史的意義について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	啓蒙思想とアメリカ独立革命 フランス革命の展開 ナポレオンの支配と対外戦争 諸国民の覚醒	【知識・技能】 ・アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレオンの支配と対外戦争などを基に、市民革命と近代国民国家の形成を理解している。 【思考・判断・表現】 ・市民革命に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・市民革命の歴史的意義について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	○	○	○	10
B 単元 【知識及び技能】 ・イギリスの産業革命、資本主義の発展、労働運動と社会主義思想の展開などを基に、産業革命と近代社会の形成を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・産業革命に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。 【学びに向かう力、人間性等】 ・産業革命の意義と社会への影響について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	イギリスの産業革命 工業化の広がり 資本主義の発展と労働問題 社会主義思想の成立	【知識・技能】 ・イギリスの産業革命、資本主義の発展、労働運動と社会主義思想の展開などを基に、産業革命と近代社会の形成を理解している。 【思考・判断・表現】 ・産業革命に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・産業革命の意義と社会への影響について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	○	○	○	9
定期考査（1学期中間）			○	○		1
1 学期 C 単元 【知識及び技能】 ・ウィーン体制、1848年革命、イタリアとドイツの統一などを基に、自由主義とナショナリズムの進展を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自由主義・ナショナリズムの進展に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自由主義・ナショナリズムの拡大と国民国家の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	ウィーン体制の成立と動揺 1848年革命 イタリアの統一 ドイツの統一 19世紀ヨーロッパの社会と文化	【知識・技能】 ・ウィーン体制、1848年革命、イタリアとドイツの統一などを基に、自由主義とナショナリズムの進展を理解している。 【思考・判断・表現】 ・自由主義・ナショナリズムの進展に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自由主義・ナショナリズムの拡大と国民国家の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	○	○	○	10

	D 単元 【知識及び技能】 ・ヨーロッパの帝国主義、アフリカ分割、アジア諸国の植民地化と民族運動などを基に、帝国主義の世界支配と抵抗運動を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・帝国主義に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。 【学びに向かう力、人間性等】 ・帝国主義時代の世界構造とアジア・アフリカの抵抗について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	ヨーロッパの帝国主義 アフリカ分割と植民地支配 インド・東南アジアの植民地化と民族運動 日清・日露戦争と東アジア 三国同盟と三国協商	【知識・技能】 ・ヨーロッパの帝国主義、アフリカ分割、アジア諸国の植民地化と民族運動などを基に、帝国主義の世界支配と抵抗運動を理解している。 【思考・判断・表現】 ・帝国主義に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・帝国主義時代の世界構造とアジア・アフリカの抵抗について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	○	○	○	12
	定期考査（1学期期末）			○	○		1
	E 単元 【知識及び技能】 ・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アジア・アフリカの民族運動などを基に、第一次世界大戦後の世界を構造的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・第一次世界大戦に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。 【学びに向かう力、人間性等】 ・第一次世界大戦の歴史的意義と戦後秩序の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	第一次世界大戦の勃発と展開 ロシア革命と社会主義国家の成立 ヴェルサイユ体制の成立 ワシントン体制と国際協調 アジア・アフリカの民族運動	【知識・技能】 ・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アジア・アフリカの民族運動などを基に、第一次世界大戦後の世界を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・第一次世界大戦に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・第一次世界大戦の歴史的意義と戦後秩序の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	○	○	○	12
	F 単元 【知識及び技能】 ・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊、第二次世界大戦の展開などを基に、戦間期から第二次世界大戦への過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・戦間期から第二次世界大戦に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。 【学びに向かう力、人間性等】 ・全体主義の台頭と第二次世界大戦の悲惨さについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	世界恐慌とその影響 ファシズム・ナチズムの台頭 日本の軍国主義と中国の抵抗 第二次世界大戦の展開 戦後処理と国際連合の成立	【知識・技能】 ・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊、第二次世界大戦の展開などを基に、戦間期から第二次世界大戦への過程を理解している。 【思考・判断・表現】 ・戦間期から第二次世界大戦に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・全体主義の台頭と第二次世界大戦の悲惨さについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	○	○	○	12
2 学 期	定期考査（2学期中間）			○	○		1
	G 単元 【知識及び技能】 ・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携、冷戦の終結などを基に、冷戦期から脱冷戦への世界を構造的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・冷戦と脱植民地化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。 【学びに向かう力、人間性等】 ・冷戦期の世界構造と脱植民地化の意義について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	冷戦の形成と展開 朝鮮戦争とベトナム戦争 アジア・アフリカの独立と非同盟運動 中ソ対立と多極化 冷戦の終結とソ連崩壊	【知識・技能】 ・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携、冷戦の終結などを基に、冷戦期から脱冷戦への世界を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・冷戦と脱植民地化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・冷戦期の世界構造と脱植民地化の意義について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	○	○	○	12
	H 単元 【知識及び技能】 ・グローバル化の進展、地域紛争と国際秩序、現代社会の諸問題などを基に、現代世界の構造と課題を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】	グローバル化と新自由主義 地域紛争と国際社会 環境問題と持続可能な社会 情報化社会と文化の多様性 現代世界の諸課題と展望	【知識・技能】 ・グローバル化の進展、地域紛争と国際秩序、現代社会の諸問題などを基に、現代世界の構造と課題を理解している。 【思考・判断・表現】 ・現代世界の諸課題に関わる事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目				

<ul style="list-style-type: none"> <li>現代世界の諸課題に関わる事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。</li> <li>【学びに向かう力、人間性等】</li> <li>現代世界の構造と課題について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</li> </ul>		<p>し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代世界の構造と課題について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。</li> </ul>	○	○	○	10
定期考査（2学期期末）			○	○		1
<p>R単元</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働の在り方の変容、情報通信技術の発達と知識の普及などを基に、知識基盤社会の展開と課題を理解する。</li> <li>【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。</li> <li>【学びに向かう力、人間性等】</li> <li>知識基盤社会の展開と課題について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</li> </ul>	<p>地球環境の未来</p> <p>バイオ・生命科学</p> <p>ICTの発達と情報社会</p> <p>知識基盤社会の形成</p> <p>科学技術と平和</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働の在り方の変容、情報通信技術の発達と知識の普及などを基に、知識基盤社会の展開と課題を理解している。</li> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解いている。</li> <li>【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>知識基盤社会の展開と課題について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。</li> </ul>	○	○	○	4
合計						
合計						95

武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

数学 科目 数学Ⅲ

教科： 数学 科目： 数学Ⅲ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 組～ 組

使用教科書： （ 高等学校 数学Ⅲ（数研出版） ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】事象を数学化したり、解釈したり、表現・処理をする技能を養う。

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考察し、表現する力を養い、事象の本質を統合的・発展的に考察する力も養う。

【主体的に学習に取り組む態度】 数学の良さを認識する。また数学を活用し物事を判断する力とその粘り強さを養う。

科目 数学Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>第1節 数列の極限</p> <p>1. 分数関数 (1.5)</p> <p>2. 無理関数 (1.5)</p> <p>3. 逆関数と合成関数 (2)</p> <p>第2章 極限</p> <p>第一節 数列の極限</p> <p>1. 数列の極限 (2.5)</p> <p>2. 無限等比数列 (1.5)</p> <p>3. 無限級数 (4)</p> <p>第二節 関数の極限</p> <p>4. 関数の極限 (1) (2.5)</p> <p>5. 関数の極限 (2) (1.5)</p> <p>6. 三角関数と極限 (2)</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念、原理、法則を理解する</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数や式を目的に応じて変形する力</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</li> </ul>	<p>分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数列の極限についての用語や表記および<math>\infty</math>の意味について理解している。・小項目A, 例1, 練習1</li> <li>○数列の収束、発散などの用語の意味を正確に理解し、簡単な数列の極限を調べることができる。・練習2</li> <li>○収束する数列の極限値の性質を理解し、正しく適用できる。・例2, 練習3</li> <li>○数列の極限について、不定形を解消するように式変形して収束、発散を調べることができる。・例3, 練習4</li> <li>○数列の極限についての用語や表記および<math>\infty</math>の意味について理解している。・小項目A, 例1, 練習1</li> <li>○数列の収束、発散などの用語の意味を正確に理解し、簡単な数列の極限を調べることができる。・練習2</li> <li>○収束する数列の極限値の性質を理解し、正しく適用できる。・例2, 練習3</li> <li>○数列の極限について、不定形を解消するように式変形して収束、発散を調べることができる。・例3, 練習4</li> <li>○無限等比級数の収束、発散を調べることができる。・例題6, 練習13</li> <li>○無限等比級数が収束する条件を理解している。・例題7, 練習14</li> <li>○収束する無限級数の性質を理解し、正しく適用できる。・例題8, 練習17</li> <li>○無限級数の収束、発散と一般項 <math>a_n</math> の収束、発散との関係を正しく理解し、無限級数の収束、発散を調べることができる。・例7練習18</li> <li>○<math>x \rightarrow a</math> のときの関数の極限の表記、および収束する場合に成り立つ極限の性質について理解し、簡単な極限を求めることができる。・例8, 練習19</li> <li>○<math>x = a</math> で定義されていない関数についても <math>x \rightarrow a</math> のときの極限値が存在することがあることを理解している。・例9</li> <li>○<math>x \rightarrow a</math> のとき発散する関数があること、およびその表記について理解し、簡単な極限を求めることができる。・例10, 練習23</li> <li>○右側極限、左側極限が異なる関数について、それぞれの極限を求めることができる。・例11～13, 練習24～25</li> <li>○<math>x \rightarrow \pm\infty</math> のときの関数の極限の表記について理解し、簡単な極限を求めることができる。・例14, 例題11, 練習26～27</li> <li>○指数関数、対数関数について、<math>x \rightarrow \pm\infty</math> のときの極限を求めることができる。・例題12, 練習29～30</li> <li>○簡単な三角関数の極限を求めることができる。・例15, 練習31</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○工夫して式変形し、数列の極限を求めることができる。・例題1, 練習5</li> <li>○数列の極限が簡単に求められない場合、はさみうちの原理を用いて極限を求めることができる。・応用例題1, 練習6</li> <li>○<math>r^n</math> を含む数列について、既習事項を適用できるように、<math>r</math> の値によって適切に式変形して、極限を考察できる。・応用例題2, 練習10</li> <li>○漸化式で定められる数列について、一般項を求めることで既習内容に帰着し、極限を求めることができる。・例題3, 練習11</li> <li>○無限級数の収束、発散について、部分和の極限を、既習の数列の極限として捉え、調べることができる。・例題4～5, 練習12</li> <li>○繰り返しを含む点の移動の問題に、無限等比級数を活用することができる。・応用例題3, 練習15</li> <li>○循環小数を無限等比級数と捉え、循環小数を分数で表すことができる。・例6, 練習16</li> <li>○不定形を解消するところから式変形し、関数の極限</li> </ul>				

		<p>不定形を解消するよりに工夫して式変形し、関数の極限を求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例題9～10、練習20～21</li> <li>○関数の極限についての等式から定数を求めることができる。</li> <li>・応用例4、練習22</li> <li>○右側極限と左側極限が異なる関数について、グラフを用いて極限について考察できる。</li> <li>・例11</li> <li>○不定形を解消するように工夫して式変形し、<math>x \rightarrow \pm\infty</math> のときの関数の極限を求めることができる。</li> <li>・応用例5、練習28</li> <li>○関数の極限が簡単に求められない場合、はさみうちの原理を用いて極限を求めることができる。</li> <li>・応用例6、練習32</li> </ul> <p>○<math>\sin \frac{1}{x}</math> の極限を利用できるように適切に式変形し、三角関数を含む関数の極限を求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例題13、応用例7、練習33～34</li> <li>○三角関数の極限を活用して、図形に関する極限について考察できる。</li> <li>・応用例8、練習35</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な数列について、<math>n</math> が大きくなるときに第 <math>n</math> 項がどのようになるかに興味をもち、積極的に調べようとする。・ p. 24～26</li> <li>○数列の極限を求めるために、様々な方法で不定形を解消しようとする。</li> <li>・例3、例題1、練習4～5</li> <li>○無限等比数列について、公比の値によって丁寧に場合分けし、極限を調べようとする。</li> <li>・小項目A</li> <li>○漸化式で定められる数列について、図を用いて極限が考えられることに興味をもつ。</li> <li>・ p. 34</li> <li>○無限等比級数の収束、発散について、既習である無限等比数列を用いて考察しようとする。</li> <li>・ p. 37</li> <li>○関数の右側極限、左側極限の考え方に興味・関心をもつ。・ p. 50～51</li> <li>○<math>x \rightarrow \pm\infty</math> のときの指数関数、対数関数の極限について、グラフを利用して理解を深めようとする。・ p. 55</li> <li>○<math>x \rightarrow \pm\infty</math> のときの三角関数の極限などについて、グラフを利用して理解を深めようとする。・ p. 56</li> </ul>	○	○	○	13	
定期考査			○	○		1	
1学期	<p>第2章 極限 第2節 関数の極限 7. 関数の連続性 (2) 第3章 微分法 第一節 導関数 1. 微分係数と導関数 (1.5) 2. 導関数の計算 (4)</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念、原理、法則を理解する</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数や式を目的に応じて変形する力</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</li> </ul>	<p>微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書・4プロセス</li> </ul>	【知識・技能】	○	○	○	8

		<p>件ではないことを具体的な関数を用いて考察できる。      ・例2, 練習2      ○これまで学んだ公式を用いて, 新たな公式を証明することができる。      ・練習6, 10  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>      ○連続であっても微分可能でない関数が存在することに興味をもつ。      ・例2, 練習2      ○<math>(x^\alpha)^\alpha = \alpha x^{\alpha-1}</math> において, <math>\alpha</math> の範囲が自然数, 整数, 有理数と拡張されていくことに興味をもち, その展開について理解を深めようとする。      ・p. 75~82</p>		
<p>第3章 微分法          第二節 いろいろな関数の導関数          3. いろいろな関数の導関数 (3)          4. 第 <math>n</math> 次導関数 (1)          5. 曲線の方程式と導関数 (1.5)          第4章 微分法的应用          第一節 導関数の応用          1. 接線の方程式 (1.5)          2. 平均値の定理 (1)          3. 関数の値の変化 (3)          4. 関数のグラフ (3)</p> <p><b>【知識及び技能】</b>          ・基本的な概念、原理、法則を理解する  <b>【思考力、判断力、表現力等】</b>          ・数や式を目的に応じて変形する力  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>          ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>導関数の定義や公式を適用して, いろいろな関数の導関数を導き, それを用いて関数が微分できるようにする。また, 陰関数や媒介変数で表された関数の微分もできるようにし, それらを事象の考察に活用できるようにする。          導関数を, 接線, 関数の増減, グラフなどに活用できるようにするとともに, 積極的に導関数を活用しようとする姿勢を育てる。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p><b>【知識・技能】</b>          ○三角関数を含む関数の微分ができる。          ・例題3, 練習16~17          ○対数関数を含む関数の微分ができる。          ・例題4, 練習18          ○対数微分法を用いて複雑な関数を微分することができる。          ・応用例題1, 練習21~22          ○指数関数を含む関数の微分ができる。          ・例題6, 練習23          ○高次導関数の定義や表記を理解し, 種々の関数の高次導関数を求めることができる。          ・例11, 練習24          ○方程式 <math>F(x, y)=0</math> を関数(陰関数)とみる考え方を理解している。          ・p. 93~94          ○方程式 <math>F(x, y)=0</math> を関数(陰関数)とみて微分することができる。          ・例題7, 練習27          ○媒介変数 <math>t</math> で表された関数の導関数を, <math>t</math> を用いて表すことができる。          ・例題8, 練習28          ○微分係数の意味を理解しており, 曲線の接線の方程式を求めることができる。          ・例題1, 練習1          ○曲線の法線の方程式を求めることができる。          ・例1, 練習2          ○平均値の定理の図形的な意味を理解している。          ・p. 106          ○導関数を用いて関数の増減を調べることができる。          ・例題3, 練習9          ○導関数を用いて関数の極値を求めることができる。          ・例題4, 練習10          ○関数の極値が与えられたとき, 関数を決定することができる。          ・応用例題3, 練習12          ○関数の増減を調べて, 最大値, 最小値を求めることができる。          ・例題6, 練習13          ○第2次導関数の図形的な意味を理解し, 曲線の凹凸や変曲点を調べることができる。          ・例3, 練習14          ○第2次導関数と極値の関係を理解している。          ・例4, 例題9, 練習17</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b>          ○<math>\log x </math> の導関数について, それを考える理由とともに理解し, 導関数の計算ができる。          ・例題5, 練習19~20          ○第2次, 第3次導関数などを求めることで, 一般の第 <math>n</math> 次導関数を求めることができる。          ・練習25          ○陰関数表示 <math>F(x, y)=0</math> を, 陽関数表示 <math>y=f(x)</math> としなくても微分できることを理解している。          ・p. 93~94          ○曲線外の点Cから曲線に接線を引くとき, 接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えて, 接線の方程式を求めることができる。          ・応用例題1, 練習3          ○陰関数の微分を活用して, 接線の方程式を求めることができる。          ・例題2, 練習4          ○平均値の定理を用いた不等式の証明ができる。          ・応用例題2, 練習6          ○数学IIで学習した関数の増減や導関数との関係について, より厳密に定義し直した上で, 平均値の定理を用いて証明することができる。          ・p. 108, 練習7          ○微分可能でない点でも関数が極値をもつことがあることを理解し, 定義をもとに極値を求めるこ</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>12</p>

		<p>とができる。・例題5, 練習11  ○増減や凹凸, 漸近線などを調べて, 関数のグラフをかくことができる。・例題7~8, 練習15~16</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】  ○<math>(1+k)^{1/k}</math> が <math>k \rightarrow 0</math> のときどのような値に近づいていくかに興味をもち, その値や性質について自ら調べようとする。・p.86, p.91 研究  ○自然対数の底 <math>e</math> の値について, 指数関数のグラフの接線の傾きという観点から見直そうとする。・p.91 研究  ○第 <math>n</math> 次導関数の式の形を予想しようとする。・練習25  ○陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について, その簡便さを理解し, 積極的に利用しようとする。・p.93~96  ○接線や法線の方程式を, 様々な導関数を活用して求めようとする。・p.102~105  ○存在定理である平均値の定理について, その意味を理解し, <math>c</math> の値を具体的に求めることで確かめようとする。・例2, 練習5  ○関数の増減の様子を調べるのに, 導関数を積極的に活用しようとする。また, 導関数だけでなく連続性や微分可能性, 極値の定義などにも注意して, 増減を丁寧に調べようとする。・p.108~114  ○関数のグラフの様々な形に興味をもち, 様々な方法でそれを調べようとする。・p.118~120</p>				
定期考査			○	○		1
<p>第3章 微分法  第二節 いろいろな応用  5. 方程式, 不等式への応用 (1)  6. 速度と加速度 (2)  7. 近似式 (1)  第5章 積分法とその応用  1. 不定積分とその基本性質 (2)</p> <p>【知識及び技能】  ・基本的な概念、原理、法則を理解する  【思考力、判断力、表現力等】  ・数や式を目的に応じて変形する力  【主体的に学習に取り組む態度】  ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え, それをもとに不定積分を求められるようにする。</p> <p>関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また, 点の運動や近似式についても理解し, 導関数を様々な方法で活用する姿勢を育てる。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p>【知識・技能】  ○<math>e^x/x^{(n)}</math> や <math>x^n/e^x</math> の <math>x \rightarrow \infty</math> のときの極限について, 直感的に理解している。・p.125  ○導関数の定義から, 点の位置を表す関数の導関数が速度を, 第2次導関数が加速度を表すことを理解している。・p.127  ○直線上を運動する点の速度と加速度を求めることができる。・例題10, 練習20  ○平面上を運動する点の速さと加速度の大きさを求めることができる。・例題11, 練習21  ○微分係数の意味とその図形的な意味から, 関数の近似式について理解できる。・p.131  ○関数の1次の近似式を作ることができる。・例6, 練習22  ○不定積分の意味について, 積分定数も含めて理解している。・p.138  ○関数 <math>x^{-\alpha}</math> の不定積分を求めることができる。・例1, 練習1  ○三角関数や指数関数の不定積分を求めることができる。・例3~4, 練習3</p> <p>【思考・判断・表現】  ○不等式を関数の値域の条件として捉え, 関数の増減を用いて不等式の証明ができる。・応用例題4, 練習18  ○方程式の解を関数のグラフの交点として捉え, グラフを用いて方程式の解について考察できる。・応用例題5, 練習19  ○直線上を運動する点の速度, 加速度をもとに, 平面上を運動する点の速度, 加速度について考察できる。・小項目B  ○関数の1次の近似式を活用して, 数の近似値を求めることができる。・例題12, 練習23~24  ○定数倍および和, 差の不定積分の公式が適用できるように式を適切に変形できる。・例2, 練習2</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】  ○不等式を関数的視点で捉え, 微分法を利用して解決しようとする。・p.125  ○点の運動の考察に微分法を活用できることに興味をもち, 様々な点の運動について調べようとする。・p.127~130  ○導関数を利用して, 1次の近似式を考察しようとする。・p.131~132  ○積分法が微分法の逆演算であることから, 様々な関数の不定積分を求めようとする。・p.138~141</p>	○	○	○	13

<p>第5章 積分法とその応用                  2. 置換積分法と部分積分法 (3)                  3. いろいろな関数の不定積分 (1)                  第二節 定積分                  4. 定積分とその基本性質 (1)                  5. 置換積分法と部分積分法 (4)                  6. 定積分のいろいろな問題 (3.5)</p> <p>【知識及び技能】                  ・基本的な概念、原理、法則を理解する                  【思考力、判断力、表現力等】                  ・数や式を目的に応じて変形する力                  【主体的に学習に取り組む態度】                  ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え、それをもとに不定積分を求められるようにする。</p> <p>様々な関数の定積分を求められるようにする。また、定積分を面積として捉え、様々な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p>【知識・技能】                  ○<math>f(ax+b)</math> の不定積分を求めることができる。・例5, 練習4                  ○合成関数の微分の逆演算として置換積分法を理解し正しく適用できる。・例題1, 練習5                  ○積の微分の逆演算として部分積分法を理解し、不定積分を求めることができる。・例題4, 練習8                  ○部分積分法を用いて、対数関数の不定積分を求めることができる。・応用例題1, 練習9                  ○不定積分の公式が適用できるように式変形を工夫して、分数関数の不定積分を求めることができる。・例題5, 練習11~12                  ○不定積分の公式が適用できるように三角関数を適切に変形して、不定積分を求めることができる。・例題6, 練習13                  ○定積分は関数のグラフと <math>x</math> 軸の間の面積を表すことを理解している。・p.151                  ○定積分の定義や性質を理解し、不定積分をもとに定積分を求めることができる。・例6~7, 練習14~15                  ○定積分の置換積分法では、積分区間の変化に注意して計算できる。・例8, 練習17                  ○三角関数で置換する置換積分法を用いて定積分を計算できる。・例題8~9, 練習18~19                  ○偶関数、奇関数の定義を理解している。・練習20                  ○定積分の部分積分法を理解し、それを利用して定積分を計算できる。・例題10, 練習22~24</p> <p>【思考・判断・表現】                  ○<math>f(g(x)) g'(x)</math> の関数の形に着目して式を見たり変形したりすることで、不定積分の計算ができる。・例題2~3, 練習6~7                  ○部分積分法を用いるとき、どの関数を <math>f(x)</math>, <math>g(x)</math> と考えるか、適切に判断できる。また、その根拠を説明できる。・例題4, 応用例題1~2, 練習8~10                  ○部分分数に分解する方法を理解している。・例題5, 練習11~12                  ○絶対値を含む関数の定積分を、積分区間を分けて求めることができる。・例題7, 練習16                  ○<math>\sqrt{a^2-x^2}</math> の定積分について、円の面積と関連付けて考察できる。・p.155, 例題8                  ○偶関数、奇関数の性質を用いて定積分の計算が効率的にできる。・例9, 練習21</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】                  ○簡単には不定積分が求められない関数について、置換積分法や部分積分法を用いて計算しようとする。・p.142~147                  ○三角関数の積を和や差の形にすることに興味をもち、その変形に用いる公式を導こうとする。・p.149                  ○定積分を面積と関連付けて理解を深めようとする。・p.151~153                  ○簡単には定積分が求められない関数について、置換積分法や部分積分法を用いて計算しようとする。・小項目A, C                  ○<math>e^x \sin nx</math> の定積分に部分積分法を用いると同じ定積分が再び出てくることに興味をもち、その計算方法を考察しようとする。・p.159 研究                  ○<math>\sin nx</math> の定積分に部分積分法を用いると漸化式が導かれることに興味をもち、その計算方法や計算結果について考察しようとする。・p.160 研究</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>6</p>
<p>定期考査</p>			<p>○ ○</p>	<p>1</p>

<p>第5章 積分法とその応用          第三節 積分法への応用          6. 定積分のいろいろな問題 (3.5)          問題 (0.5)          7. 面積 (4)          8. 体積 (4)</p> <p>【知識及び技能】          ・基本的な概念、原理、法則を理解する          【思考力、判断力、表現力等】          ・数や式を目的に応じて変形する力          【主体的に学習に取り組む態度】          ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>様々な関数の定積分を求められるようにする。また、定積分を面積として捉え、様々な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p>【知識・技能】          ○上端が <math>x</math> である定積分を、<math>x</math> で微分することができる。・練習25          ○数列の和の極限を定積分を用いて求めることができる。・応用例題6, 練習30          ○関数の大小と定積分の大小の関係を、用いたり、定積分を図形の面積とみたりすることで、不等式の証明ができる。・例題11, 応用例題7, 練習31~32          ○定積分を用いて図形の面積を求めることができる。・例10, 例題12, 練習33~35          ○曲線 <math>x=g(y)</math> で囲まれた部分の面積を求めることができる。・例11, 例題13, 練習36          ○<math>F(x, y)=0</math> で表される曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。・応用例題8, 練習37          ○定積分で体積が求められる仕組みを、区分求積法で面積が求められることと関連付けて理解している。・p.174~175          ○<math>x</math> 軸、<math>y</math> 軸周りの回転体の体積を求めることができる。・例題15~16, 練習41~43</p> <p>【思考・判断・表現】          ○上端、下端に <math>x</math> を含む定積分を、<math>x</math> の関数と捉えて問題を解決できる。・応用例題3~4, 練習25~27          ○定積分は定数であることを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。・応用例題5, 練習28          ○区分求積法について理解し、長方形の作り方を変えた場合などについても考察、説明ができる。・p.163, 練習29          ○媒介変数表示された曲線で囲まれた図形の面積を、置換積分法を活用して求めることができる。・応用例題9, 練習38          ○立体の断面がどのような図形になるか考え、定積分を用いて体積を求めることができる。・応用例題10, 練習40          ○<math>F(x, y)=0</math> で表される曲線や媒介変数表示された曲線で囲まれる図形を回転させてできる回転体の体積を求めることができる。・応用例題11, 練習44</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】          ○曲線で囲まれた部分の面積を、細長い長方形の面積の和の極限と捉えることに興味をもち、定積分と数列の和の極限との関係を考察しようとする。・p.163~164          ○図形の面積を求めるとき、グラフの位置関係などを、図をかいて把握しようとする。・p.169~173          ○面積を求める際、対称性に着目して、計算を効率的に行おうとする。・応用例題8, 練習37          ○定積分を用いると、既習の三角錐や円錐の体積、球の体積の公式が導けることに興味をもち、積極的に考察しようとする。・例題14~15, 練習39</p>	○	○	○	15
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>第5章 積分法とその応用          9. 道のり (1)          10. 曲線の長さ (1)</p> <p>課題学習          課題学習1          平方根の近似値          課題学習2          いろいろな無限級数          課題学習3          2つの曲線の共有点の個数          課題学習4  <math>\int_{-\alpha}^{\alpha} \beta \sqrt{(x-\alpha)^m (x-\beta)^n} dx</math></p> <p>【知識及び技能】          ・基本的な概念、原理、法則を理解する          【思考力、判断力、表現力等】          ・数や式を目的に応じて変形する力</p>	<p>定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。</p> <p>第2章までに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。</p> <p>第4章までに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。</p> <p>第5章までに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p>【知識・技能】          ○数直線上で運動する点の座標や通過した道のりを、定積分を用いて求めることができる。・例12, 練習46          ○座標平面上で運動する点の通過する道のりを、定積分を用いて求めることができる。・例題17, 練習48          ○媒介変数表示された曲線の長さを、座標平面上で点が通過した道のりと関連させて理解している。・p.185          ○媒介変数表示された曲線の長さを求めることができる。・例14, 例題18, 練習49          ○曲線 <math>y=f(x)</math> の長さを求めることができる。・例題19, 練習50</p> <p>【思考・判断・表現】          ○数直線上で運動する点が通過する道のりについて、<math>v-t</math> グラフで囲まれた部分の面積と関連付けて考察できる。・例13          ○曲線 <math>y=f(x)</math> は <math>x=t, y=f(t)</math> と媒介変数表示することで、曲線 <math>y=f(x)</math> の長さを求めることができる。</p>				

- ・教べたを目的に心しく変形する力
- 【主体的に学習に取り組む態度】
- ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。

りることに、曲線 $y=f(x)$  の長さを求めることを理解している。・ p. 187

○ニュートン法を利用すると平方根の近似値が求められることを理解し、具体的な数についてその近似値を求めることができる。・課題1～2, まとめの課題1

○適切な不等式を用いることで、与えられた無限級数が収束するかどうかの判定をすることができる。・課題3～4, まとめの課題2

○2つの曲線の共有点の個数が3個になるのはどのような場合かを、それぞれの課題から導き出される結果を整理しながら求めることができる。・課題5～7, まとめの課題3

○置換積分法や部分積分法を使い分けながら、定積分の値を求めることができる。・課題8～11, まとめの課題4

【主体的に学習に取り組む態度】

○点の運動の考察に定積分を活用できることに興味をもち、様々な点の運動について調べようとする。・ p. 181～184

○曲線上の点が通過する道のりを、その曲線の長さで捉えることに興味をもち、理解を深めようとする。・ p. 185～187

○関数のグラフを用いて極限が予想できることに興味をもち、その予想が正しいことを証明しようとする。・ p. 198～199

○形が似ている無限級数でもその収束・発散は異なることに興味をもち、積極的に調べようとする。・ p. 200～201

○計算によって求められた結果が正しいことを、コンピュータなどを用いて確かめようとする。・ p. 202～203

○一般化した式がどのようになるかを予想しながら取り組むことができる。・ p. 204～205

12

定期考査

○ ○

1

合計

84

武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学C

教科： 数学 科目： 数学C 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 組～ 組

使用教科書： （ 高等学校 数学C（数研出版） ）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 事象を数学化したり、解釈したり、表現・処理をする技能を養う。
- 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考察し、表現する力を養い、事象の本質を統合的・発展的に考察する力も養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識する。また数学を活用し物事を判断する力とその粘り強さを養う。

科目 数学C の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
第1章 平面上のベクトル 第一節 ベクトルとその演算 1. ベクトル (1) 2. ベクトルの演算 (3) 3. ベクトルの成分 (2) 4. ベクトルの内積 (3)  【知識及び技能】 ・基本的な概念、原理、法則を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・数や式を目的に応じて変形する力 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。  ・教科書・4プロセス	【知識・技能】 ○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。・p.8～9 ○ベクトルの和の計算ができる。・例2, 練習3 ○ベクトルの実数倍の定義を理解し、式で表現できる。・例3, 練習6 ○ベクトルの平行条件を理解し、平行なベクトルを求めることができる。・例5, 練習9 ○平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを2つのベクトルで表すことができる。・p.16, 例題1, 練習10 ○ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができる。・例6, 練習11 ○成分表示されたベクトルの計算ができる。・例7, 例題2, 練習12～13 ○点の座標とベクトルの成分の関係を理解し、2点で定められるベクトルを成分表示できる。・例8, 練習15 ○ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。・例9～10, 練習17～18 ○成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。・例11, 練習19 ○成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。・例12, 練習20 ○ベクトルの垂直条件を理解し、成分を定めることができる。・例13, 練習21  【思考・判断・表現】 ○ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し、図の中から探すことができる。・例1, 練習1 ○ベクトルの和の定義を理解し、それを図示できる。・練習2 ○ベクトルの差の定義を理解し、それを図示できる。・練習5 ○ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。・練習7 ○ベクトルの実数倍の性質をもとに、ベクトルの演算ができる。・例4, 練習8 ○ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し、成分を定めることができる。・例題3, 練習14 ○点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。・例題4, 練習16 ○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。・例題5, 練習22～23 ○内積の性質を用いて、等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。・例14, 応用例題1～2, 練習24～26  【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量で、向きと大きさをもつものがあることに興味をもち、それをベクトルで表現しようとする。・p.8 ○ベクトルの演算に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。・p.10～16 ○成分表示されたベクトルの演算法則を、ベク	○	○	○	12

		トルの演算法則から導き出そうとする。・p.18 ○内積の性質を、既習の知識を用いて証明しようとする。・p.26 ○ベクトルの内積の計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。・p.26～27					
	定期考査		○	○		1	
1 学 期	<p>第二節 ベクトルと平面図形</p> <p>5. 位置ベクトル (2)</p> <p>6. ベクトルの図形への応用 (2)</p> <p>7. 図形のベクトルによる表示 (3)</p> <p>第2章 空間のベクトル</p> <p>1. 空間の点 (1)</p> <p>2. 空間のベクトル (1)</p> <p>3. ベクトルの成分 (1.5)</p> <p><b>【知識及び技能】</b> ・基本的な概念、原理、法則を理解する</p> <p><b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ・数や式を目的に応じて変形する力</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。</p> <p>平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p><b>【知識・技能】</b> ○点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。・小項目A ○ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。・練習27 ○内分点、外分点の位置ベクトルを求めることができる。・例15, 練習28 ○位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。・応用例題3, 練習30 ○直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。・例16, 練習33 ○通る1点と法線ベクトルから直線が定まることを理解し、具体的に直線の方程式を求めることができる。・練習36 ○円のベクトル方程式から、その中心の位置ベクトルや半径を求めることができる。・練習37 ○空間の点と原点との距離が求められるようになる。・練習2 ○平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは、空間においても同様に成り立つことを理解している。・小項目A ○空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。・例2, 練習3 ○空間図形において、ベクトルの和や差を考慮することができる。・例3, 練習4 ○空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを3つのベクトルで表すことができる。・例題1, 練習5 ○ベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、ベクトルが等しくなるように成分を定めたり、成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。・練習6～7 ○成分表示された空間のベクトルの演算ができる。・例4, 練習8 ○座標空間の2点で定められるベクトルを成分表示できる。・例5, 練習9</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ○位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。・例題6, 練習29 ○位置ベクトルの一意性を活用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。・応用例題4, 練習31 ○ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。・応用例題5, 練習32 ○点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。・応用例題6, 練習34～35 ○空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。・例1, 練習1 ○空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について、平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。・p.54 ○空間ベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。・小項目A</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○三角形の3本の中線が1点で交わることが、重心の位置ベクトルを求める過程で証明できることに興味をもち、それを確かめようとする。・</p>	○	○	○	15

		<p>p. 34</p> <p>○様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。・p. 36～38</p> <p>○図形のベクトル方程式について、点の座標(x, y) についての方程式と関連させて考察し、それらの共通点などを見出そうとする。・応用例題6, 練習34, 36, P45 研究</p> <p>○座標空間における点の表し方を、座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。・p. 50～51</p> <p>○平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから、ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。・小項目A</p> <p>○空間のベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。・p. 55～5</p>				
定期考査			○	○		1
<p>第2章 空間のベクトル</p> <p>4. ベクトルの内積 (1.5)</p> <p>5. ベクトルの図形への応用 (3)</p> <p>6. 座標空間における図形 (1)</p> <p>第3章 複素数平面</p> <p>1. 複素数平面 (3)</p> <p>2. 複素数の極形式 (3)</p> <p>3. ド・モアブルの定理 (3)</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念、原理、法則を理解する</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数や式を目的に応じて変形する力</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</li> </ul>	<p>平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。</p> <p>複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>○成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。・例6, 練習10</p> <p>○位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。・p. 61</p> <p>○空間の4点が同じ平面上にある条件を理解し、点の座標を定めることができる。・例題4, 練習15</p> <p>○座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。・練習18～19</p> <p>○座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる。・練習20</p> <p>○中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。・例7, 練習21</p> <p>○複素数の絶対値の定義を理解し、与えられた複素数の絶対値を求めることができる。・例2, 練習4</p> <p>○複素数の実数倍が複素数平面上で何を意味するか理解し、3点が1直線上にあるように複素数を定めることができる。・例題1, 練習8</p> <p>○共役複素数の性質を理解し、用いることができる。・例4, 練習9</p> <p>○複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。・例題3, 練習11</p> <p>○極形式で表された複素数の積と商を求めることができる。・例5, 練習13</p> <p>○複素数の積や商について、絶対値と偏角だけに注目した性質を理解している。・練習14</p> <p>○複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。・例6, 例題4, 練習15～16</p> <p>○ド・モアブルの定理を理解し、複素数の n 乗を求めることができる。・例7, 例題5, 練習18</p> <p>○1の n 乗根を求めることができる。・例8, 練習19</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○座標空間の3点で定まる角の大きさを、ベクトルを活用して求めることができる。・例題2, 練習11</p> <p>○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。・例題3, 練習12</p> <p>○位置ベクトルを活用して、空間の3点が1直線上にあることを証明できる。・応用例題1, 練習14</p> <p>○位置ベクトルの一意性を活用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。・応用例題2, 練習16</p> <p>○ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。・応用例題3, 練習17</p> <p>○条件から中心と半径を考え、球面の方程式を求めることができる。・練習21</p> <p>○球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。・応用例題4, 練習22</p> <p>○1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。・例1, 練習1</p>	○	○	○	18

		<p>○複素数平面上で共役複素数が何を表すか理解し、対称な点について説明できる。・練習2          ○複素数の絶対値の定義から、実数の絶対値も統一的に捉えることができる。・p. 78          ○複素数の和、差を複素数平面上に図示できる。・練習6          ○共役複素数や <math>-z</math> などを極形式でどのように表すか、その定義から考察できる。・p. 85, 練習12          ○複素数の積の図形的な意味を活用して、正三角形の頂点となる複素数を求めることができる。・応用例題1, 練習17          ○複素数の <math>n</math> 乗根がちょうど <math>n</math> 個存在することを、極形式を用いて考察できる。・p. 91~92          ○1の <math>n</math> 乗根の求め方をもとに、一般の複素数の <math>n</math> 乗根を求めることができる。・応用例題2, 練習20</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>          ○平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。・p. 58~60          ○様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。・p. 61~64, 66          ○座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し、座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。・p. 67~70          ○複素数平面上の定義から、複素数の和、差や実数倍などが複素数平面上で何を意味するか自ら考察しようとする。・p. 76~81          ○複素数 <math>z</math> が実数や純虚数になる条件について、様々な方法で考察しようとする。・p. 77, 練習3          ○複素数が <math>a+bi</math> とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。・p. 84          ○複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。・p. 90</p>				
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>第3章 複素数平面          4. 複素数と図形 (4)</p> <p><b>【知識及び技能】</b>          ・基本的な概念、原理、法則を理解する</p> <p><b>【思考力、判断力、表現力等】</b>          ・数や式を目的に応じて変形する力  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>          ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p><b>【知識・技能】</b>          ○複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。・例題6, 練習23~24          ○原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。・例題7, 練習26          ○複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。・例9, 練習27          ○複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し、利用することができる。・例題8, 練習28</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b>          ○線分の内分点を表す複素数を活用して、線分の内分点や外分点を表す複素数や三角形の重心を表す複素数を求めることができる。・練習21~22          ○点 <math>z</math> と連動して動く点 <math>w</math> が描く図形について、その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。・応用例題3, 練習25          ○半直線のなす角について、原点以外の点を中心とする回転と統一的に理解している。・小項目C~D          ○複素数平面上における半直線のなす角や線分の長さを活用して、三角形の形状について考察できる。・応用例題4, 練習29, p. 102 研究</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>          ○図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。・p. 94~101          ○複素数の方程式が表す図形について、複素数を <math>x+yi</math> とおくなどして、複素数の方法で考察しようとする。・p. 96</p>	○	○	○	5

		<p>○複素数平面上の三角形の形状が1つの複素数で決定されることに興味をもち、三角形の形状を調べようとする。・p.102 研究</p>	
<p>第4章 式と曲線</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>放物線 (1)</li> <li>楕円 (2.5)</li> <li>双曲線 (2.5)</li> <li>2次曲線の平行移動 (2)</li> <li>2次曲線と直線 (2)</li> <li>2次曲線の性質 (1)</li> <li>曲線の媒介変数表示 (4)</li> <li>極座標と極方程式 (4.5)</li> <li>コンピュータの利用 (0.5)</li> </ol> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念、原理、法則を理解する</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数や式を目的に応じて変形する力</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</li> </ul>	<p>放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるようにする。また、離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書・4プロセス</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。・p.106</li> <li>○放物線の標準形について理解し、放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。・例1～2, 練習1～2</li> <li>○y 軸が軸となる放物線の概形をかきことができる。・練習3</li> <li>○楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。・p.108</li> <li>○楕円の標準形について理解し、楕円の概形をかいたり焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。・例3, 練習4</li> <li>○焦点が y 軸上にある楕円の概形をかいたり、焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。・練習6</li> <li>○楕円が、円を拡大、縮小した曲線であることを理解している。・例4, 練習7</li> <li>○双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。・p.114</li> <li>○双曲線の標準形について理解し、双曲線の概形をかいたり焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。・例5, 練習9</li> <li>○直角双曲線の定義や方程式について理解している。・練習11</li> <li>○焦点が y 軸上にある双曲線の概形をかいたり、焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。・練習12</li> <li>○x, y の2次式を変形して、2次曲線の概形を考えることができる。・例題3, 練習15</li> <li>○2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることができる。・p.125 研究</li> <li>○楕円と双曲線も、放物線と同じように1つの定点と1つの定直線をもとに考えられることを理解している。・p.126～127</li> <li>○媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。・例7, 練習19</li> <li>○円や楕円を媒介変数表示できる。・練習21～22</li> <li>○双曲線を媒介変数表示できる。・練習24</li> <li>○点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。・例8～9, 練習27～28</li> <li>○簡単な曲線を極方程式で表すことができる。・例10～13, 例題7, 練習29～31</li> <li>○平面上の曲線について、x, y の方程式と極方程式を相互に変換できる。・例題8～9, 練習32～33</li> <li>○媒介変数表示された曲線や極方程式で表される曲線を、コンピュータを用いて描くことができる。・例14, 練習36～37</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○軌跡の考え方をを用いて、放物線の方程式を導くことができる。・p.106</li> <li>○軌跡の考え方をを用いて、楕円の方程式を導くことができる。・p.108</li> <li>○条件を満たす点の軌跡として、楕円の方程式を求めることができる。・応用例題1, 練習8</li> <li>○軌跡の考え方をを用いて、双曲線の方程式を導くことができる。・p.114</li> <li>○焦点が y 軸上にある双曲線の方程式について、焦点が x 軸上にある双曲線をもとに考察できる。・p.118</li> <li>○曲線 <math>F(x-p, y-q)=0</math> は曲線 <math>F(x, y)=0</math> を平行移動したものであることを理解している。・p.120, 例6, 練習13～14</li> <li>○2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察できる。・例題4, 練習16</li> <li>○2次曲線と直線の接点を連立方程式の重解と捉え、接線の方程式を求めることができる。・応用例題2, 練習17</li> <li>○離心率の条件を満たす点の軌跡として、2次曲線の方程式を求めることができる。・応用例題3, 練習18</li> <li>○条件から点の座標を1つの文字で表し、それを曲線の媒介変数表示と捉えることで、その点が描く曲線を求めることができる。・例題5, 練習20</li> <li>○媒介変数表示された曲線の平行移動について、点の平行移動をもとに考察できる。・応用例題4, 練習25</li> </ul>	<p>○ ○ ○ 12</p>

		<p>○円について、既に学んだ三角関数による方法以外の方法での媒介変数表示について考察できる。・p.137 研究</p> <p>○離心率 <math>e</math> についての条件から2次曲線の極方程式を求め、直交座標の方程式に変換するなどして考察できる。・例題11, 練習35</p> <p>○いろいろな曲線をコンピュータで描画し、その性質を考察できる。・p.146~147</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <p>○放物線を、条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。・p.106</p> <p>○焦点が <math>y</math> 軸上にある楕円の方程式について、焦点が <math>x</math> 軸上にある楕円をもとに考察しようとする。・小項目B</p> <p>○双曲線の漸近線について、曲線が限りなく近づくことを確かめようとする。・p.115</p> <p>○中学で学んだ反比例のグラフが双曲線であることに興味をもち、双曲線の定義を満たしていることを確かめようとする。・p.119 研究</p> <p>○複雑な方程式で表される2次曲線について、平行移動の考えを利用して調べようとする。・例題3, 練習15</p> <p>○2次曲線の接線の方程式の一般形に興味をもち自ら導出してみようとする。・p.125 研究</p> <p>○2次曲線を、離心率 <math>e</math> と1との大小をもとに、統一的に捉えようとする。・p.127</p> <p>○曲線の媒介変数表示について、具体的に点をプロットしていくことで、どのような曲線か考察しようとする。・p.131</p> <p>○双曲線の媒介変数表示について、具体的に確かめようとする。・例題6, 練習23</p> <p>○サイクロイドについて、具体的な点をプロットするなどして、媒介変数表示や曲線の概形を考察しようとする。・p.135, 練習26</p> <p>○媒介変数を用いて表される様々な曲線に興味をもち、その概形などを調べようとする。・p.136 研究</p> <p>○直交座標とは異なる方法で点の位置が表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。・p.138</p> <p>○2次曲線の極方程式について、離心率 <math>e</math> と1との大小をもとに、統一的に捉えようとする。・p.145 研究</p> <p>○コンピュータを用いて、係数をいろいろ変えたりサイジュー曲線を描き、その変化と係数の関係を調べようとする。・例14, 練習36・</p>				
定期考査			○	○		1
<p>第5章 数学的な表現の工夫</p> <p>1. データの表現方法の工夫 (3)</p> <p>2. 行列による表現 (7)</p> <p>3. 離散グラフによる表現 (5)</p> <p>4. 離散グラフと行列の対応 (4)</p> <p><b>【知識及び技能】</b></p> <p>・基本的な概念、原理、法則を理解する</p> <p><b>【思考力、判断力、表現力等】</b></p> <p>・数や式を目的に応じて変形する力</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>日常の事象や社会の事象などを、図、表、統計グラフ、離散グラフや行列などを用いて工夫して表現することの意義について理解するとともに、それらを積極的に活用して事象を考察する姿勢を培う。</p> <p>・教科書・4プロセス</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <p>○データをバレット図に表現する方法を理解している。・p.152~153</p> <p>○バブルチャートを用いると、3つの変量を視覚的に表現できることを理解している。・p.155~157</p> <p>○行列の記法や用語を理解している。・p.158~159</p> <p>○行列の和と差の計算ができる。・練習6~7</p> <p>○行列の実数倍の計算ができる。・練習8~9</p> <p>○行列の積の計算ができる。・例2, 練習10~12</p> <p>○どのようなものを表現したときに離散グラフを用いるのか理解している。・p.166~167</p> <p>○離散グラフの奇点、偶点の意味を理解している。・例4, 練習14</p> <p>○ダイクストラ法を用いて最短経路を調べるこ</p>				

とができる。・練習19  
 ○離散グラフの隣接行列について理解し、隣接行列を求めることができる。また、与えられた隣接行列をもつ離散グラフをかくことができる。・例5, 練習20～21

**【思考・判断・表現】**  
 ○データをバレット図に表現することができる。・練習1  
 ○バブルチャートの特徴を理解し、バブルチャートで表されたデータから正しい情報を読み取ることができる。・練習2  
 ○日常の事象や社会の事象などを行列で表現する意義を理解し、行列で表現したり、行列やその計算結果からその意味を読み取ったりできる。・例1, 練習3, 6, 8, 10～11  
 ○連結な離散グラフが一筆書きできる条件について、その理由とともに理解し、一筆書きできるかどうか判断できる。また、その理由を説明できる。・練習15～17  
 ○ダイクストラ法で最短経路が求められる理由を考察できる。・p. 170～173  
 ○離散グラフの隣接行列の積が経路の数え上げに利用できることを理解し、経路の数を考察することができる。・練習22～24

**【主体的に学習に取り組む態度】**  
 ○データを表現するのに様々な方法があることに興味をもち、データの特徴や表現したいことに応じて、方法を検討しようとする。・p. 152～157  
 ○バレット図が品質管理に用いられることに興味をもち、様々な判断にバレット図を活用しようとする。・p. 154  
 ○行列による表現に興味をもち、様々なものを行列で表現したり、行列の演算結果を読み取ったりしようとする。・p. 158～165  
 ○離散グラフによる表現に興味をもち、様々なものを離散グラフで表現したりそれをを用いて考察したりしようとする。・p. 166～173  
 ○離散グラフを一筆書きする方法を、試行錯誤によって見つけようとする。・例3, 練習13  
 ○離散グラフと行列を対応させることに興味をもち、経路の総数などの考察に積極的に活用しようとする。・p. 174～177

○ ○ ○

21

合計  
126

武蔵丘 高等学校 令和8年度 (3学年用) 教科 数学 科目 数学I+A

教科: 数学 科目: 数学I+A 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 1 組~ 8 組

使用教科書: ( 高等学校 数学Iおよび数学A (数研出版) )

教科 数学 の目標:

- 【知識及び技能】事象を数学化したり、解釈したり、表現・処理をする技能を養う。
- 【思考力、判断力、表現力等】論理的に考察し、表現する力を養い、事象の本質を統合的・発展的に考察する力も養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識する。また数学を活用し物事を判断する力とその粘り強さを養う。

科目 数学I+A の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする基本的な知識と技能を身に付けるようにする。	演習と振り返りを通して、数学Iと数学Aで学ぶ法則やその図形的な意味を考察する力、図形や式の本質に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	basic問題、challenge問題 3 2次関数 (中間調査まで) 【知識及び技能】 ・基本的な概念、原理、法則を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・数や式を目的に応じて変形する力 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。	数学Iおよび数学Aの意味およびその演算について理解し簡潔に表現できるようにする。また、既習事項について理解したことをもとに数学Iと数学Aの各単元のついて考察できるようにする。  ・新課程リンク数学演習I・A(数研出版)の該当部分 basic問題、challenge問題(授業演習)	【知識・技能】 ○既習事項の定義や表し方を理解している。 ○既習事項の計算ができる。 ○既習事項を式で表現でき、求めることができる。  【思考・判断・表現】 ○既習事項の定義を理解し、図示したり式に表現できる。 ○既習事項の演算ができる。 ○複数の数量関係を、問題解決に活用できる。 ○既習事項の性質を用いて、等式を証明したり、値を求めたりすることができる。  【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量に興味をもち、それを表現しようとする。 ○数式の変形に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ○既習事項を法則から導き出そうとする。 ○計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。	○	○	○	14
	basic問題、challenge問題 4 図形と計量 6 場合の数と確率 (期末調査まで) 【知識及び技能】 ・基本的な概念、原理、法則を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・数や式を目的に応じて変形する力 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。	数学Iおよび数学Aの意味およびその演算について理解し簡潔に表現できるようにする。また、既習事項について理解したことをもとに数学Iと数学Aの各単元のついて考察できるようにする。  ・新課程リンク数学演習I・A(数研出版)の該当部分 basic問題、challenge問題(授業演習)	【知識・技能】 ○既習事項の定義や表し方を理解している。 ○既習事項の計算ができる。 ○既習事項を式で表現でき、求めることができる。  【思考・判断・表現】 ○既習事項の定義を理解し、図示したり式に表現できる。 ○既習事項の演算ができる。 ○複数の数量関係を、問題解決に活用できる。 ○既習事項の性質を用いて、等式を証明したり、値を求めたりすることができる。  【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量に興味をもち、それを表現しようとする。 ○数式の変形に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ○既習事項を法則から導き出そうとする。 ○計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。	○	○	○	14
定期調査			○	○		1	

2 学 期	<p>basic問題、challenge問題</p> <p>7 図形の性質</p> <p>1 数と式</p> <p>2 集合と命題</p> <p>5 データの分析 (中間調査まで)</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念、原理、法則を理解する</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数や式を目的に応じて変形する力</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</li> </ul>	<p>数学 I および数学 A の意味およびその演算について理解し簡潔に表現できるようにする。また、既習事項について理解したことをもとに数学 I と数学 A の各単元のついて考察できるようにする。</p> <p>・新課程リンク数学演習 I ・ A (数研出版) の該当部分 basic問題、challenge問題 (授業演習)</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項の定義や表し方を理解している。</li> <li>○既習事項の計算ができる。</li> <li>○既習事項を式で表現でき、求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項の定義を理解し、図示したり式に表現できる。</li> <li>○既習事項の演算ができる。</li> <li>○複数の数量関係を、問題解決に活用できる。</li> <li>○既習事項の性質を用いて、等式を証明したり、値を求めたりすることができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の量に興味をもち、それを表現しようとする。</li> <li>○数式の変形に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。</li> <li>○既習事項を法則から導き出そうとする。</li> <li>○計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。</li> </ul>	○	○	○	14
	定期調査			○	○		1
2 学 期	<p>basic問題、challenge問題</p> <p>8 数学と人間の活動</p> <p>9 補充問題</p> <p>大学入試演習</p> <p>(期末調査まで)</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念、原理、法則を理解する</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数や式を目的に応じて変形する力</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</li> </ul>	<p>数学 I および数学 A の意味およびその演算について理解し簡潔に表現できるようにする。また、既習事項について理解したことをもとに数学 I と数学 A の各単元のついて考察できるようにする。</p> <p>・新課程リンク数学演習 I ・ A (数研出版) の該当部分 basic 問題、challenge 問題 (授業演習)</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項の定義や表し方を理解している。</li> <li>○既習事項の計算ができる。</li> <li>○既習事項を式で表現でき、求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項の定義を理解し、図示したり式に表現できる。</li> <li>○既習事項の演算ができる。</li> <li>○複数の数量関係を、問題解決に活用できる。</li> <li>○既習事項の性質を用いて、等式を証明したり、値を求めたりすることができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の量に興味をもち、それを表現しようとする。</li> <li>○数式の変形に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。</li> <li>○既習事項を法則から導き出そうとする。</li> <li>○計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。</li> </ul>	○	○	○	14
	定期調査			○	○		1
3 学 期	<p>大学入試演習</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念、原理、法則を理解する</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数や式を目的に応じて変形する力</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</li> </ul>						10
	合計						70

武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ+B

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ+B 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 8 組

使用教科書： （ 高等学校 数学Ⅱおよび数学B（数研出版） ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 事象を数学化したり、解釈したり、表現・処理をする技能を養う。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考察し、表現する力を養い、事象の本質を統合的・発展的に考察する力も養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識する。また数学を活用し物事を判断する力とその粘り強さを養う。

科目 数学Ⅱ+B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
式の証明、図形と方程式。三角・指数・対数関数、微積分。数列と漸化式、統計的推測、（一部ベクトル、複素数平面）についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする基本的な知識と技能を身に付けるようにする。	演習と振り返りを通して、数学Ⅱと数学Bで学ぶ法則やその図形的な意味を考察する力、図形や式の本質に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
アプローチ問題 ベーシック問題 9 式と証明 10 複素数と方程式 12 三角関数 （中間考査まで） 【知識及び技能】 ・基本的な概念、原理、法則を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・数や式を目的に応じて変形する力 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。	数学Ⅱおよび数学Bの意味およびその演算について理解し簡潔に表現できるようにする。また、既習事項について理解したことをもとに数学Ⅱと数学Bの各単元について考察できるようにする。  ・リンク IA・II B・Cの数学Ⅱ・数学Bの該当部分 approach 問題 basic 問題	【知識・技能】 ○既習事項の定義や表し方を理解している。 ○既習事項の計算ができる。 ○既習事項を式で表現でき、求めることができる。  【思考・判断・表現】 ○既習事項の定義を理解し、図示したり式に表現できる。 ○既習事項の演算ができる。・例4, 練習8 ○複数の数量関係を、問題解決に活用できる。 ○既習事項の性質を用いて、等式を証明したり、値を求めたりすることができる。  【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量に興味をもち、それを表現しようとする。 ○数式の変形に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ○既習事項を法則から導き出そうとする。 ○計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1
アプローチ問題 ベーシック問題 13 指数関数と対数関数 14 微分法と積分法 15 数列と漸化式 16 統計的推測 （期末考査まで） 【知識及び技能】 ・基本的な概念、原理、法則を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・数や式を目的に応じて変形する力 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。	数学Ⅱおよび数学Bの意味およびその演算について理解し簡潔に表現できるようにする。また、既習事項について理解したことをもとに数学Ⅱと数学Bの各単元について考察できるようにする。  ・リンク IA・II B・Cの数学Ⅱ・数学Cの該当部分	【知識・技能】 ○既習事項の定義や表し方を理解している。 ○既習事項の計算ができる。 ○既習事項を式で表現でき、求めることができる。  【思考・判断・表現】 ○既習事項の定義を理解し、図示したり式に表現できる。 ○既習事項の演算ができる。・例4, 練習8 ○複数の数量関係を、問題解決に活用できる。 ○既習事項の性質を用いて、等式を証明したり、値を求めたりすることができる。  【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量に興味をもち、それを表現しようとする。 ○数式の変形に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ○既習事項を法則から導き出そうとする。 ○計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1

2 学 期	<p>アプローチ問題 ベーシック問題 9 式と証明 10 複素数と方程式 11 図形と方程式 12 三角関数 (中間考査まで) 【知識及び技能】 ・基本的な概念、原理、法則を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・数や式を目的に応じて変形する力 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>数学Ⅱおよび数学Bの意味およびその演算について理解し簡潔に表現できるようにする。また、既習事項について理解したことをもとに数学Ⅱと数学Bの各単元のついて考察できるようにする。</p> <p>・リンク IA・ⅡB・Cの数学Ⅱ・数学Bの該当部分 Challenge問題（授業演習）</p>	<p>【知識・技能】 ○既習事項の定義や表し方を理解している。 ○既習事項の計算ができる。 ○既習事項を式で表現でき、求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○既習事項の定義を理解し、図示したり式に表現できる。 ○既習事項の演算ができる。・例4、練習8 ○複数の数量関係を、問題解決に活用できる。 ○既習事項の性質を用いて、等式を証明したり、値を求めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量に興味をもち、それを表現しようとする。 ○数式の変形に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ○既習事項を法則から導き出そうとする。 ○計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	<p>チャレンジ問題 13 指数関数と対数関数 14 微分法と積分法 15 数列と漸化式 16 統計的推測 (期末考査まで) 【知識及び技能】 ・基本的な概念、原理、法則を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・数や式を目的に応じて変形する力 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善する態度を養う。</p>	<p>数学Ⅱおよび数学Bの意味およびその演算について理解し簡潔に表現できるようにする。また、既習事項について理解したことをもとに数学Ⅱと数学Bの各単元のついて考察できるようにする。</p> <p>・リンク IA・ⅡB・Cの数学Ⅱ・数学Bの該当部分 Challenge問題（授業演習）</p>	<p>【知識・技能】 ○既習事項の定義や表し方を理解している。 ○既習事項の計算ができる。 ○既習事項を式で表現でき、求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○既習事項の定義を理解し、図示したり式に表現できる。 ○既習事項の演算ができる。・例4、練習8 ○複数の数量関係を、問題解決に活用できる。 ○既習事項の性質を用いて、等式を証明したり、値を求めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量に興味をもち、それを表現しようとする。 ○数式の変形に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ○既習事項を法則から導き出そうとする。 ○計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。</p>	○	○	○	5
定期考査			○	○		1	
						合計	126

年間授業計画 新様式例

教科 理科

科目： 物理・物理演習

単位数： 4+2 単位

対象学年組： 第 3 学年

教科担当者： 代田

教科 物理・物理演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
科学的な知識及び技能が身に着いたかを定期考査で評価する。	科学的な思考力・判断力・表現力等が身に着いたかを定期考査で評価する。	科学的な学びに向かう力、人間性等を定期考査で評価する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
科学的な思考力を育成する。 大学入試に対応する力を育成する。 大学入学後に必要となる力を育成する。	力学	定期考査	○	○	○	40
	熱力学		○	○	○	10
	波動		○	○	○	10
	電磁気		○	○	○	40
	原子		○	○	○	10
	入試問題演習		○	○	○	10

**武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 理科 科目 化学**

教科：理科 科目：化学 単位数：4 単位

対象学年組：第 3 学年 化学選択者

使用教科書：（「化学 academia」 「化学基礎 academia」 美教出版 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに  
関する技能を身に付けようとする。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解している。 ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	・化学的な事物・現象に問題を見出し、研究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	・化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	物質の変化と平衡 有機化合物	電解質水溶液の平衡 有機化合物とその構造 脂肪族炭化水素	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。	○	○	○	25
	有機化合物	酸素を含む脂肪族化合物 芳香族化合物	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。	○	○	○	25
2 学 期	高分子化合物	高分子化合物 天然高分子化合物 合成高分子化合物	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。	○	○	○	30
	無機物質	元素と周期表 非金属元素 典型金属元素 遷移元素	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。	○	○	○	20
3 学 期	理論化学 有機化学 無機化学	「理論化学」「有機化学」「無機化学」の総復習	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。	○	○	○	40

武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用）教科 理科 科目 生物

教科：理科 科目：生物 単位数：4 単位

対象学年組：第 3 学年 必修選択

使用教科書：（生物 数研出版）

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての知識と科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象についての理解を深め、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象についての理解を深め、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物学の基本的な概念や原理・法則の知識を身につけ、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。	生物学の概念や原理・法則についての理解を深める。観察、実験などをもとに科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 単元 生物の進化 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生物の進化について、生命の起源と進化、遺伝子の変化、生物の系統と進化の各事項を理解する。 【思考・判断・表現】資料に基づいて、生物の進化についての特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物の進化について、生命の起源と進化、遺伝子の変化、生物の系統と進化の各事項を関連付けて理解しようとする。	○	○	○	15
	B 単元 細胞と分子 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生命現象と物質について、生体物質と細胞、生命現象とタンパク質の各事項を理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて生命現象と物質の特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生命現象と物質について、生体物質と細胞、生命現象とタンパク質の各事項を関連付けて理解しようとする。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	C 単元 代謝 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生命現象と物質について、呼吸、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて、呼吸、光合成の特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生命現象と物質について、呼吸、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解しようとする。	○	○	○	15
	D 単元 遺伝情報の発現と発生 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】遺伝情報の発現と発生について、DNAの複製、遺伝子発現のしくみ、発生と遺伝子発現の各事項を関連付けて理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて、遺伝情報の発現と発生について特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】遺伝情報の発現と発生について、DNAの複製、遺伝子発現のしくみ、発生と遺伝子発現の各事項を関連付けて理解しようとする。	○	○	○	15
定期考査			○	○	○	1	
2 学 期	D 単元 遺伝情報の発現と発生 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】遺伝情報の発現と発生について、遺伝子を扱う技術の原理と有用性を理解する。 【思考・判断・表現】資料に基づいて、遺伝子を扱う技術について特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】遺伝情報の発現と発生について、DNAの複製、遺伝子発現のしくみ、発生と遺伝子発現の各事項を関連付けて理解しようとする。	○	○	○	18
	E 単元 生物の環境応答 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】動物の環境応答についての観察、実験などを通して、動物の刺激の受容と反応、動物の行動について理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて、動物の反応と行動について特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】動物の反応と行動について、刺激の受容と反応、動物の行動を神経系の働きと関連付けて理解しようとする。	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1
F 単元 生物の環境応答 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】植物の環境応答についての観察、実験などを通して、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて、環境変化に対する植物の環境応答について特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】植物の環境応答について、植物の成長や反応を植物ホルモンや環境変化と関連付けて理解しようとする。	○	○	○	18	

	G 単元 生物群集と生態系 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生態と環境について、個体群と生物群集、生態系の物質生産と物質循環について理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて、個体群と生物群集、生態系の物質生産と物質循環について特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生態と環境について、生態系における生物間の関係性および生物と環境との関係形成を見いだして理解しようとする。	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期							
							合計 136

武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用）教科 理科 科目 生物演習

教科：理科 科目：生物演習 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 自由選択

使用教科書：（生物 数研出版）

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての知識と科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象についての理解を深め、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象についての理解を深め、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物学の基本的な概念や原理・法則の知識を身につけ、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。	生物学の概念や原理・法則についての理解を深める。観察、実験などをもとに科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 生物の進化 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生物の進化について、遺伝子、遺伝子の組合せの変化、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を理解する。 【思考・判断・表現】資料に基づいて、生物の進化について遺伝子との関係の特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生物の進化について、遺伝子、遺伝子の組合せの変化、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列の各事項を関連付けて理解しようとする。	○	○	○	4
	B 単元 細胞と分子 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生命現象と物質について、生体物質と細胞、生命現象とタンパク質の各事項を理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて生命現象と物質の特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生命現象と物質について、生体物質と細胞、生命現象とタンパク質の各事項を関連付けて理解しようとする。	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
	C 単元 代謝 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】生命現象と物質について、呼吸、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて、呼吸、光合成の特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】生命現象と物質について、呼吸、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解しようとする。	○	○	○	8
	D 単元 遺伝情報の発現と発生 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】遺伝情報の発現と発生について、DNAの複製、遺伝子発現のしくみ、発生と遺伝子発現の各事項を関連付けて理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて、遺伝情報の発現と発生について特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】遺伝情報の発現と発生について、DNAの複製、遺伝子発現のしくみ、発生と遺伝子発現の各事項を関連付けて理解しようとする。	○	○	○	8
定期考査			○	○	○	1	
2 学 期	D 単元 遺伝情報の発現と発生 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】遺伝情報の発現と発生について、遺伝子を扱う技術の原理と有用性を理解する。 【思考・判断・表現】資料に基づいて、遺伝子を扱う技術について特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】遺伝情報の発現と発生について、DNAの複製、遺伝子発現のしくみ、発生と遺伝子発現、遺伝子を扱う技術の各事項を関連付けて理解しようとする。	○	○	○	6
	E 単元 生物の環境応答 【知識及び技能】  【思考力、判断力、表現力等】  【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】動物の環境応答についての観察、実験などを通して、動物の刺激の受容と反応、動物の行動について理解する。 【思考・判断・表現】資料や実験、観察に基づいて、動物の反応と行動について特徴を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】動物の反応と行動について、刺激の受容と反応、動物の行動を神経系の働きと関連付けて理解しようとする。	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1







武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅲ

教科： 芸術 科目： 美術Ⅲ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 8 組

使用教科書： ( 『高校生の美術3』 )

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】進路実現に資するよう画材の基本的な使用法に一層習熟する。

【思考力、判断力、表現力等】視覚を中心とした感性を動員し、数多くの作品制作に取り組み表現の豊かさを身に着ける。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり美を愛好し生活の中で美しさを追求する姿勢を尊び、自らの進路と美術との関わりを意識する。

科目 美術Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
アクリル・ガッシュ、マスキングテープ、ケント紙・洋紙等の支持体の特性をよく活用したか。また古今東西の名作を通して自身の表現活動に役立つ要素を取り入れるべく、多くの作品を調べ味わう。	芸術的思考力といえる「自己の視覚」を中心とした五感を動員し、各自の進路学習に役立つ制作活動を数多く行う。また共同制作の意義をよく理解し2年次のフォロー役として今までの経験を活かし制作の支援を行う。	計画的に制作リズムを確立し、講評の内容を積極的に次の制作に活用する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
オリエンテーション 【知識及び技能】 ・年間の授業の受け方やリズムや美術教室や用具の基本的な種類を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身の進路実現に向けての計画を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・意欲的にオリエンテーションに参加し履修する仲間と前向きな受講をする態度を養う。	・自己紹介 ・静物デッサン	【知識及び技能】 ・指示通りの移動や用具の準備を行える。 【思考力、判断力、表現力等】 ・進路実現のための多くの作品制作の予定を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・個別面談を通して、主体的に仲間や用具と関わりつつ、志望校を選択する情報収集に取り組む。	○	○	○	2
デッサン制作 【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟する。 ・進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作を繰り返す。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高める。	・鉛筆デッサン（四つ切サイズによる） ・端末を使用したデザイン・映像作品制作 ・平面色彩構成の復習を通じた色彩表現学習	【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟し進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作に集中できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高めようと努力できている。	○	○	○	14
デッサン制作 【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟する。 ・進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作を繰り返す。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高める。	・鉛筆デッサン（四つ切サイズによる） ・端末を使用したデザイン・映像作品制作 ・平面色彩構成の復習を通じた色彩表現学習	【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟し進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作に集中できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高めようと努力できている。	○	○	○	18
以下の内容の自宅学習  デッサン制作 【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟する。 ・進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作を繰り返す。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高める。	以下の内容の自宅学習  ・鉛筆デッサン（四つ切サイズによる） ・端末を使用したデザイン・映像作品制作 ・平面色彩構成の復習を通じた色彩表現学習	以下の内容の自宅学習  ・鉛筆デッサン（四つ切サイズによる） ・端末を使用したデザイン・映像作品制作 ・平面色彩構成の復習を通じた色彩表現学習				12

合計
44

武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 芸術 科目 美術特講

教科： 芸術 科目： 美術特講 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 8 組

使用教科書： ( )

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】進路実現に資するよう画材の基本的な使用法に一層習熟する。

【思考力、判断力、表現力等】視覚を中心とした感性を動員し、数多くの作品制作に取り組み表現の豊かさを身に着ける。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり美を愛好し生活の中で美しさを追求する姿勢を尊び、自らの進路と美術との関わりを意識する。

科目 美術特講 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
アクリル・ガッシュ、マスキングテープ、ケント紙・洋紙等の支持体の特性をよく活用したか。また古今東西の名作を通して自身の表現活動に役立つ要素を取り入れるべく、多くの作品を調べ味わう。	芸術的思考力といえる「自己の視覚」を中心とした五感を動員し、各自の進路学習に役立つ制作活動を数多く行う。また共同制作の意義をよく理解し2年次のフォロー役として今までの経験を活かし制作の支援を行う。	計画的に制作リズムを確立し、講評の内容を積極的に次の制作に活用する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
オリエンテーション 【知識及び技能】 ・年間の授業の受け方やリズムや美術教室や用具の基本的な種類を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身の進路実現に向けての計画を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・意欲的にオリエンテーションに参加し履修する仲間と前向きな受講をする態度を養う。	・自己紹介 ・静物デッサン	【知識及び技能】 ・指示通りの移動や用具の準備を行える。 【思考力、判断力、表現力等】 ・進路実現のための多くの作品制作の予定を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・個別面談を通して、主体的に仲間や用具と関わりつつ、志望校を選択する情報収集に取り組む。	○	○	○	2
1 学期 デッサン制作 【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟する。 ・進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作を繰り返す。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高める。	・鉛筆デッサン（四つ切サイズによる） ・端末を使用したデザイン・映像作品制作 ・平面色彩構成の復習を通した色彩表現学習	【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟し進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作に集中できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高めようと努力できている。	○	○	○	14
デッサン制作 【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟する。 ・進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作を繰り返す。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高める。	・鉛筆デッサン（四つ切サイズによる） ・端末を使用したデザイン・映像作品制作 ・平面色彩構成の復習を通した色彩表現学習	【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟し進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作に集中できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高めようと努力できている。	○	○	○	18
以下の内容の自宅学習	以下の内容の自宅学習	以下の内容の自宅学習				
3 学期 デッサン制作 【知識及び技能】 ・用具使用法に習熟する。 ・進路実現に対して鉛筆デッサンの重要性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・構図・形・明暗・質感・空間感（奥行）といったデッサン評価の諸要素にてらして説得力のある制作を繰り返す。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自身の作品の長所短所をよく理解し、完成度を高める。	・鉛筆デッサン（四つ切サイズによる） ・端末を使用したデザイン・映像作品制作 ・平面色彩構成の復習を通した色彩表現学習	・鉛筆デッサン（四つ切サイズによる） ・端末を使用したデザイン・映像作品制作 ・平面色彩構成の復習を通した色彩表現学習				合計  34

**武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅢ**

教科：外国語 科目：英語コミュニケーションⅢ 単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 1組～8組

使用教科書：（LANDMARK Fit English CommunicationⅢ）

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等聞いて、その内容を捉える技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。

科目 英語コミュニケーションⅢ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようになる。	日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようになる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で表現したり、コミュニケーションを取ることができる。多読活動を通じて、自分の興味のある本を読み、英語力を高める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 （ や ） ）	話 （ 発 ） ）					
Lesson 2 Blood Is Blood (1) 聞くこと 血液型性格診断や献血について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図、概要や要点などを把握することができる。 (2) 読むこと チャールズ・ドルー医師について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開、概要や要点などを把握することができる。 (3) 話すこと [やり取り] 血液型性格診断や本文の内容について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。 (4) 話すこと [発表・やり取り] 自身の献血について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく話して伝えたり、伝え合ったりすることができる。 (5) 書くこと 自身の献血について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えることができる。	・教科書、副教材 ・小テスト ・共通テスト対策 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	18
		Lesson 2 Blood Is Blood (1) 聞くこと 血液型性格診断や献血について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図、概要や要点などを把握することができる。 (2) 読むこと チャールズ・ドルー医師について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開、概要や要点などを把握することができる。 (3) 話すこと [やり取り] 血液型性格診断や本文の内容について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。 (4) 話すこと [発表・やり取り] 自身の献血について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく話して伝えたり、伝え合ったりすることができる。 (5) 書くこと 自身の献血について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えることができる。	○	○	○	○	○	○	○	18
定期考査		○	○				○	○		1

1  
学  
期

<p>Lesson 3 Biomimetics</p> <p>(1) 聞くこと 生物を模倣した製品や関心を持ったバイオメティクスの例について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図、概要や要点などを把握することができる。</p> <p>(2) 読むこと バイオメティクスについて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開、概要や要点などを把握することができる。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] 生物が持つ能力や本文の内容について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。</p> <p>(4) 話すこと [発表・やり取り] 関心を持ったバイオメティクスの例について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく話して伝えたり、伝え合ったりすることができる。</p> <p>(5) 書くこと 関心を持ったバイオメティクスの例について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、副教材</li> <li>・小テスト</li> <li>・共通テスト対策</li> <li>・一人1台端末の活用</li> </ul>					<p>【知識及び技能】</p> <p>〈知識〉バイオメティクスについて書かれた文章を読み取るために必要な語彙や表現を理解している。</p> <p>〈技能〉バイオメティクスについて書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>バイオメティクスについて理解するために、バイオメティクスについて書かれた文章を読んで、文章の展開、概要や要点などを捉えている。</p>												20
<p>定期考査</p>																		1
<p>Lesson 4 Political Correctness</p> <p>(1) 聞くこと 名前の呼び方や日本におけるポリティカルコレクトネスについて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図、概要や要点などを把握することができる。</p> <p>(2) 読むこと ポリティカルコレクトネスについて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開、概要や要点などを把握することができる。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] 名前の読み方や本文の内容について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。</p> <p>(4) 話すこと [発表・やり取り] 日本におけるポリティカルコレクトネスについて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく話して伝えたり、伝え合ったりすることができる。</p> <p>(5) 書くこと 日本におけるポリティカルコレクトネスについて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、副教材</li> <li>・小テスト</li> <li>・共通テスト対策</li> <li>・一人1台端末の活用</li> </ul>					<p>【知識及び技能】</p> <p>〈知識〉ポリティカルコレクトネスについて書かれた文章を読み取るために必要な語彙や表現を理解している。</p> <p>〈技能〉ポリティカルコレクトネスについて書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>ポリティカルコレクトネスについて理解するために、ポリティカルコレクトネスについて書かれた文章を読んで、文章の展開、概要や要点などを捉えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>多読活動を通じて、自分の興味のある本を読み、英語力を高める。ポリティカルコレクトネスについて理解するために、ポリティカルコレクトネスについて書かれた文章を読んで、文章の展開、概要や要点などを捉えようとしている。</p>												18
<p>Lesson 5 Saving Our Treasures from the Sea</p> <p>(1) 聞くこと 世界遺産や町の災害対策について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図、概要や要点などを把握することができる。</p> <p>(2) 読むこと ベニスと厳島神社の高波対策について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開、概要や要点などを把握することができる。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] 世界遺産や本文の内容について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。</p> <p>(4) 話すこと [発表・やり取り] 町の災害対策について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく話して伝えたり、伝え合ったりすることができる。</p> <p>(5) 書くこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、副教材</li> <li>・小テスト</li> <li>・共通テスト対策</li> <li>・一人1台端末の活用</li> </ul>					<p>【知識及び技能】</p> <p>ベニスと厳島神社の高波対策について理解するために、ベニスと厳島神社の高波対策について書かれた文章を読んで、文章の展開、概要や要点などを捉えている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>ベニスと厳島神社の高波対策について理解するために、ベニスと厳島神社の高波対策について書かれた文章を読んで、文章の展開、概要や要点などを捉えている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>ベニスと厳島神社の高波対策について理解するために、ベニスと厳島神社の高波対策について書かれた文章を読んで、文章の展開、概要や要点などを捉えようとしている。</p>												18



**武蔵丘 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅲ**

教科：外国語 科目：論理・表現Ⅲ 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 8 組

使用教科書：（ MY WAY Logic and Expression Ⅲ （三省堂） ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行うために必要な発信能力を身につける。日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを理解し、活用しながら、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理的に工夫して伝えたり、表現したりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の特徴やきまり、その背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

科目 論理・表現Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）						書
1 学 期	さまざまなタイプの動詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法 ・自分のことを表現するために大切な語句や表現	○	○	○	○	○	○	○	○	2
	時制の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法 ・自分のことを表現するために大切な語句や表現	○	○	○	○	○	○	○	○	2
	助動詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法 ・自分のことを表現するために大切な語句や表現	○	○	○	○	○	○	○	○	2
	定期考査			○		○		○	○		1
	不定詞と動名詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法 ・自分のことを表現するために大切な語句や表現	○	○	○	○	○	○	○	○	2
	分詞や分詞構文の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法 ・自分のことを表現するために大切な語句や表現	○	○	○	○	○	○	○	○	2
	比較の表現の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて、身近なものと社会的なできごとについて、複数の文を言ったり書いたりする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法 ・自分のことを表現するために大切な語句や表現	○	○	○	○	○	○	○	○	2
定期考査			○		○		○	○		1	



**武蔵丘 高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 外国語 科目 英語演習（発展）**

教科： 外国語 科目： 英語演習（発展） 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 8 組

使用教科書： （ なし ）

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手や話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれていること、話されることを理解しようとしている。

科目 英語演習（発展） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の特徴やきまり(文法・論理展開)に関する事項を理解し、入試問題の演習を通じて 大学入試に合格するだけの読解能力を身につけている。外国語の背景にある文化に対する理解を深めている。様々な分野の話題についての英文を読み、一般常識の知識を増やしている。	まとまった英文の段落ごとの要旨や論理展開を素早く把握できる。英文全体の要約文を書ける。設問の正答に至るまでの着眼点を身に付けている。	難解な問題に対しても諦めることなく、粘り強く課題に取り組んでいる。予習・復習にきちんと取り組んでいる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 ( や )	話 ( 発 )	書					
1 学 期	Unit1～Unit4 【知識及び技能】 様々な文法表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 まとまった英文の段落ごとの要旨や論理展開を素早く把握できるようにする。英文全体の要約文を書けるようにする。設問の正答に至るまでの着眼点を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 難解な問題に対しても諦めることなく、粘り強く課題に取り組む。予習・復習にきちんと取り組む。	・副教材					【知識及び技能】 様々な文法表現を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 まとまった英文の段落ごとの要旨や論理展開を素早く把握できる。英文全体の要約文を書ける。設問の正答に至るまでの着眼点を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 難解な問題に対しても諦めることなく、粘り強く課題に取り組むことができる。予習・復習にきちんと取り組むことができる。				8
	Unit5～Unit9 【知識及び技能】 様々な文法表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 まとまった英文の段落ごとの要旨や論理展開を素早く把握できるようにする。英文全体の要約文を書けるようにする。設問の正答に至るまでの着眼点を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 難解な問題に対しても諦めることなく、粘り強く課題に取り組む。予習・復習にきちんと取り組む。	・副教材					【知識及び技能】 様々な文法表現を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 まとまった英文の段落ごとの要旨や論理展開を素早く把握できる。英文全体の要約文を書ける。設問の正答に至るまでの着眼点を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 難解な問題に対しても諦めることなく、粘り強く課題に取り組むことができる。予習・復習にきちんと取り組むことができる。				10
	定期考査										1
2 学	Unit10～Unit15 【知識及び技能】 様々な文法表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 まとまった英文の段落ごとの要旨や論理展開を素早く把握できるようにする。英文全体の要約文を書けるようにする。設問の正答に至るまでの着眼点を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 難解な問題に対しても諦めることなく、粘り強く課題に取り組む。予習・復習にきちんと取り組む。	・副教材					【知識及び技能】 パラグラフ・リーディングを理解している。ディスコースマーカーに着目して英文を読むことができる。様々な文法事項を理解し、識別できる。 【思考力、判断力、表現力等】 まとまった英文の段落ごとの要旨や論理展開を素早く把握できる。英文全体の要約文を書ける。設問の正答に至るまでの着眼点を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 難解な問題に対しても諦めることなく、粘り強く課題に取り組む。予習・復習にきちんと取り組むことができる。				12





